

学 会 報 告

学術大会

第22回学術大会 於鶴見大学（鶴見大学
学会館）平成20年5月24日（土曜日）

9:30～ 受付開始

9:50～10:00 開会の辞 三埵依文唱
和

【研究発表・午前の部】

1. 10:00～10:25 井上綾瀬（龍谷大
学大学院）司会 玉井 威

「ヤーマカーリカーについて」

2. 10:25～10:50 Gyana Ratna（愛
知学院大学講師）司会 森部 一

Contemporary Buddhism in Arakan—Roles
of Monasteries in the Society—

（休憩）

3. 11:00～11:25 Uditā Garusinha
（ケラニヤ大学上級講師）司会 橘堂正
弘

A Study of the Guidance Possible from the
Pali Canon for the Qualitative Development
of Nursing Today

4. 11:25～12:00 鄭筱均（中国社会
科学院世界宗教研究所研究員）司会 馬
場雄司

「潑水節に見られる中国上座仏教の発展
の特徴」

【研究発表・午後の部】

13:45～14:10 馬場雄司（京都文教大
学教授）司会 奥平龍二

「雲南の上座仏教——日本における人類
学・歴史学的研究の蓄積」

14:10～14:35 森部 一（南山大学教
授）司会 羽矢辰夫

「東北タイのシーサ・アソーク仏教共同

体運動について」

14:50～15:15 橘堂正弘（相山女学園
大学教授）司会 龍口明生

「知られざるスリランカにおけるパーリ
語文献」

理事会

理事会は、大会当日の昼食休憩時間に
鶴見大学学会館3階会議室にて開催され
た。出席者は次の通り。（順不同）

橘堂正弘、前田恵學、玉井 威、福田
琢、森部 一、蓑輪顕量、下田正弘、羽
矢辰夫、奥平龍二、佐藤良純、片山一
良、佐藤良純、池上要靖、矢島道彦、武
田 龍、龍口明生、谷川泰教、西尾秀
生、馬場雄司、藤本 晃、山極伸之、
藤井正雄（顧問）、高崎直道（オブザー
バー）

庶務の蓑輪が司会を務め、下記の議題
に入った。

1. 2007年度事業報告並びに 2. 2007
年度決算報告

福田が説明を行い、寄付金に対して領
収書を忘れないでほしいことが述べられ
たが、別紙の通り了承された。

3. 2008年度事業計画について

学会誌の発行、年次大会を行うことを
説明し、原案通り了承された。

4. 2008年度予算について

原案通り了承された。

5. 前田基金について

前田が説明を行い台湾の仏光山大学の
准教授である奥村浩基氏から台湾の上座
仏教について現地調査を行いたいとの申
し入れがあり、台湾の上座仏教の現状は

詳細な報告はまだ無いことから有意義な研究になるであろうことが前田より述べられた。よって基金から出したい、また来年度の学会に、スリランカの研究者を招請したい旨が提案され、審議の結果、了承された。

6. 2007年度承認の役員（理事）の確認

昨年の理事会で決定された新規の理事候補者に対し、就任承諾を求めた結果、多くの方が就任を了承してくださったことが説明された。東部、中部、西部で総勢47名の理事が就任されたことが述べられた。

7. 次期理事長の選出について

現在の執行部が2年目を迎えており、会則の第10条に従い当番の地域から次期の執行部を選ばなければならない時期に来ていることが述べられ、その選出の仕方について審議に入った。現執行部は会則に則り「当番の地域に所属する理事の中から候補を立て」とあるが、実際に本日、出席している理事は17名のうち6名にしか過ぎず、また会則では当番の地域の中の理事だけで選出するのか、学会の理事全員で選出するのか、正式には決まっていないことが述べられた。また選出の方法が具体的に規定されていないことも述べられ、全体の理事で投票を行い、上位2名を核に選出していただくことなども一案としては良いのではないかと提案もなされた。

これに対し出席の理事から、投票による上位2名の選出は会則に規定されていない、また指名された人が固辞する場合も在るのではないかと、それぞれの学会の伝統があって相応しい選出の仕方が望ましいとの意見が述べられた。その意見に対し、執行部では今回の理事長の選出が実質的に初めてであり、選出の規定はこ

れから新たに作っていく性格のものではないかとの反論を述べた。審議の結果、理事の方々に次期執行部の選出の方法に関し、実際に地区ごとの理事会を開催し選出するのが望ましいのか、あるいは当番の地区の理事を被選挙人に、地区内での理事による投票または学会理事全員での投票が望ましいのか、いろいろな場合分けをして、各理事に意見を打診することになった。

8. 次期開催校について

次期開催校として高野山大学が候補である旨が述べられ、全員一致で了承された。なお日時は、平成21年5月29・30日（金・土）の2日間であり金曜日に理事会、懇親会が行われることも併せて了承された。

9. 新規会員の承認及び退会者の報告

平成19年度の新規会員として（敬称略）、Kongkarattanaruk Phrapongsak, 井上綾瀬, 河野 訓, 北島泰観, 佐藤 厚, 前田知郷, 矢野秀武の7名が、また平成20年度として周夏の1名の申し込みがあり、要件を満たしているので入会を了承した旨が報告された。なお敝部俊英, 遠藤 康, 松涛泰雄, 湯山 明から退会希望があり了承したい旨が述べられ、了解された。

10. その他

宗教系学会の連合会が本年度に設立されるのに伴い、本学会としても参加したい旨が述べられ、了承された。

会員総会

15:30～16:30 会員総会は研究発表の後、発表会場を会場に行われた。庶務の蓑輪が司会を務め、佐藤良純（大正大学）を議長に選出し、理事会で審議・報告された諸事項について提案・報告がな

され、いずれも承認された。

懇親会

17:00～19:00 鶴見駅前「翠華楼」
(中華料理店)にて開催。20名参加。高
崎直道先生の挨拶など、和やかに研究交
流が行われた。

理事長の選出及び執行部に関わる報告

パーリ学仏教文化学会は新執行部を形
成し2年間の活動を行ってきましたが、
平成21年3月で3年の任期満了を迎え
ます。来年度からは東部地区に事務局を
移転しますが、それに先立ち、どのよう
な理事長及び執行部の選出方法がもっと
も望ましいか、理事の方々にアンケート
を依頼いたしました。そしてアンケート
によって得られた結果を、次のような文
面に認め、理事の皆様へ送付させていた
だきました。

平成20年7月3日

理事 各位

パーリ学仏教文化学会

理事長 橘堂正弘

梅雨の候 ご健勝のことと存じます。

過日は、理事長選出のアンケートにご
協力を賜り、有り難うございました。お
かげさまで33通の返却を頂戴いたし
ました(一通は全くの白紙委任でした)。
早速、集計致しましたのでお知らせいた
します。質問は8項目に渡るものでした
が、次のような結果となりました。

1. 理事会を開催し出席理事による互選
をする

得票数

①当該地区の理事のみによる 11

②全員の理事による 5

2. 郵便の投票による選出を行う

①当該地区の理事のみによる 6

②全員の理事による

10

被選挙人(候補者)に関して

1. 理事長候補者は担当地区の理事の在
任年数を考慮する 18

2. 理事長候補者は担当地区の理事であ
れば在任年数を問わない 13

1. その他の常任理事は選出される理事
長に一任する 26

2. その他の常任理事も同じく理事の選
出に準じて(今回に決定される方式に従
い)選出する 5

また自由記述欄には、理事長候補は
「一期以上務めた方」(1名)、「三期以上
務めた方」(1名)が望ましいとの意見
もありました。

上記のアンケート結果を受け、平成
20年6月27日午後6時30分より現常任
理事による会議を開き今後の方針を話し
合い、以下のようにさせていただくこと
を決定致しました。

①次期理事長の選出は当該地区の理事の
みの理事会を開催し、互選による選出
とする。

②理事長候補は、理事の在任2期以上の
方とする。

③その他の常任理事は選出される理事長
に一任する。

以上です。このような方針のもとに次
期理事長の選出を進めさせて戴きたいと
存じますので、何とぞご諒解を賜ります
よう、お願い申し上げます。

敬具

東部地区理事会の報告

アンケート結果及び6月27日の現常
任理事による会議を受け、次なる理事長

及び常任理事を選出すべく、東部地区の理事会を開催いたしました。(中部地区の橘堂理事長が召集し、庶務担当の蓑輪がともに出席。)

東部地区理事会

日時 平成20年8月6日(水) 午後3時～5時

場所 東京都千代田区神田錦町3-28学士会館310号室

出席者 橘堂正弘 奥平龍二 森 祖道 池上要靖 佐久間秀範 羽矢辰夫 蓑輪 顕量

理事長の橘堂が司会となり下記の議題に入った。

1. 東部地区よりの次期理事長選出について

司会の橘堂は、東部地区より常任理事を選出し、次期の事務局体制を作りたい旨を申し述べ審議に入ったが、まず事務局をどこが引き受けてくれるのかを決めるのが先決ではないかとの動議がなされた。過去の理事会の審議及びアンケートの結果では、まず理事長を選出し、その方を中心に事務局を形成して頂く準備を進める方針であったが、現実には事務局を引き受けてくれるところを探してからで

なければ、理事長の選出は難しいとの意見であった。

審議の結果、事務局を引き受けてくださりそうなところに打診をすることから始めることになった。奥平先生から、武蔵野大学の田中先生に打診をしてみましようとの提案がなされ、武蔵野大学の状況を確認してから、再度、理事長を始めとする常任理事の選出に当たることになった。

また会長・理事長併存に対しても疑問が提出され、継続審議の課題となった。

以上、審議は2時間に及んだが、事務局、理事長、庶務、編集、会計を担当する常任理事の方を選出することは先送りされた。しかし、まず事務局の引き受けを打診することは約され、閉会が宣言された。

研究会

11月25日午後4時30分から同朋大学 Do プラザ閲覧蔵2Fの多目的ホールにて、台湾の仏光大学助理教授の奥村浩基氏から「日本人のみた台湾仏教」と題して興味深いお話を伺った。

(文責 庶務・蓑輪)